

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

つまづきをどう克服したか (27)
 (ICT機器活用などを通して主体的な学びにつなげる少林寺拳法の授業)

岡山県笠岡市立金浦中学校

笠岡市立金浦中学校では、2017年に赴任した小井寿史教諭(現教頭)が、剣道に加えて少林寺拳法の授業を開始した。小井教頭は、2009年に笠岡市内の中学校で少林寺拳法の授業を実施しており、少林寺拳法連盟の武道必修化プロジェクトの委員でもある。およそ10年間の授業実践とプロジェクトを通して構築したのは、ICT機器などを活用して少林寺拳法を理解させるとともに、生徒が興味・関心を持って自ら考える主体的な学びにつなげる授業であった。今回は本誌記者の取材をもとに、金浦中学校における生徒主体の少林寺拳法授業を紹介する。

1 少林寺拳法を やろう!

2012(平成24)年度からの中学校武道必修化にあたって、笠岡市では、市内公立中学校で剣道を実施することになり、各校に竹刀と剣道具(防具)が提供され、保健体育科教師が授業を実施していた。

「せっかくの武道授業なのに、これでは生徒が達成感を得られな

い」。2017(平成29)年度に笠岡市立金浦中学校に赴任した小井寿史教頭は、当時の様子を振り返り返る。1回50分の剣道授業では、防具の着脱に多くの時間を取られて、実質的な指導に充てる時間は限られる。その上、年間8時間程度の授業数で剣道の歴史から礼法や基本動作、簡単な試合までこなすとすると、生徒が達成感を味わえるような授業にするのは難しいのではないかと考えた。

金浦中学校のベテラン保健体育科の藤井学教諭も「剣道の授業を教師一人でやるのは大変難しいで

2 授業の実際

少林寺拳法の授業はどんな内容なのか。本誌記者は、2年、1年の順で7・8時間目の授業を取材。体育館で2クラス合同・男女共修により実施されていた。

(1) 2時間通しの授業

小井教頭は授業に必ず講話を取り入れる。前述のように、少林寺拳法の教えは学習指導要領や道徳教育が目指すところと一致していると考える小井教頭にとって、この講話は必須項目である。しかし、授業の「導入」(点呼、本時の目標)と「まとめ」(自己評価シートへの振り返りの記入など)に多くの時間がかかるため、これに講話を入れると「展開」の時間は30分にも満たない。そのため、授業は2時間通して実施(途中休



少林寺拳法の理念を講話する小井教頭



笠岡市立金浦中学校

「す」と苦労を語る。市教委は剣道の実施2年目より、各校に外部指導者を配置したが、人材不足のため、1校当たり6時間分しか配分できず、1年、2年に振り分けると、各学年が専門的に学べるのはわずか3時間であった。そして4年前から外部指導者の配置も困難となった。

一方、小井教頭は、修行年数28年の少林寺拳法の経験者である。少林寺拳法の授業については、2009年度より、文部科学省の中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践事業に応募。近隣地区で共同運営している笠岡市矢掛町中学校組合立小北中学校において、岡山県少林寺拳法連盟副理事長の馬場辰巳氏とともに、少林寺拳法の授業を展開(月刊「武道」2012年2月号参照)。また、少林寺拳法連盟の武道必修化プロジェクト委員を務め、日本武道館と少林寺拳法連盟が共催する中学校武道授業指導法研究事業や全国指導者研修会にも研究者・講師の立場で参加している(月刊「武道」2

015年7月号参照)。

小井教頭には、学習指導要領に記載されている「生きる力の涵養」や道徳教育が目指す「道徳性の育成」が、少林寺拳法の理念と一致することから、少林寺拳法を多くの学校授業に取り入れたいという思いが強かった。「今のままで、日本は国力が劣化の一途を辿ってしまう。それを防ぐには子どもたちにより良い教育を施すことが何よりも大切で、少林寺拳法はその有効な手段となり得る。教員のやる気次第でなんとかなる」。

小井教頭には、確たる自信と意欲があった。小井教頭の上申に対し、学校長は、すぐに理解を示した。ただし、市教委の方針を考慮して、剣道とともに少林寺拳法を実施することになった。

こうして、小井教頭が今までの知見をもとに単元計画(資料1)を作成。保健体育科教師2名とともに授業を実施する体制をつくり、2018年度より、1・2年生で剣道とともに少林寺拳法を開始した(3年生は剣道のみを実



金浦中が導入しているクラス管理システム classroom の画面



小井教頭による模範

資料1 令和元年度1・2年生 保健体育 武道（少林寺拳法）単元計画

単元指導計画

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			関	思	技	知	
一	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・礼法・作法の練習。 ・音楽のリズムに合わせて基本動作の練習をする。 ・講話「武の本質」を聞く。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方ができる。【関心・意欲・態度】 ○音楽のリズムにあわせて楽しみながら基本動作の練習ができる。【関心・意欲・態度】 ○「武の本質」を学び、自分の言葉でまとめることができる。【知識・理解】 (生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教師の観察に評価の方法とする。)
二	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「大切なものを守るために」を聞く。 ・基本となる技の練習をする。 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○「大切なものを守るために」を学び、自分の言葉でまとめることができる。【知識・理解】 ○技のポイントに応じた動作ができている。【技能】 (生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教師の観察に評価の方法とする。)
三	5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「自分と相手が共に上達するために」を聞く。 ・PCを活用した練習 	○		○		<ul style="list-style-type: none"> ○「自分と相手が共に上達するために」を学び、伝統的な考え方をとり入れ、積極的にグループ学習ができる。【関心・意欲・態度】 ○技や演武のポイント、安全上の留意点を考え、グループで教え合うことができる。【思考・判断】 (生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教師の観察に評価の方法とする。)
四	7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・PCを活用した練習 ・講話「君は生きのびることができるか」を聞く。 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○基本となる技の攻防を用いて演武ができる。【技能】 ○少林寺拳法の授業で学んだことを現在や将来の自分の生活にどう生かすかを考えることができる。【思考・判断】 (生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、技能の評価、審判の仕方の評価は、生徒用・教師用の演武採点シートを評価の方法とする。)

【評価の観点】 関=関心、意欲、態度 思=思考、判断
技=技能 知=知識、理解

憩を含むし、「導入」と「まとめ」を一緒に行うことにした。

実施時期は10月下旬から11月上旬にかけて、計4回、8時間の授業が行われた。ちなみに剣道の授業は、少林寺拳法の単元終了後に行うという。

(2) 授業を公開

また、授業はオープンスクールとして公開されており、取材当日も6名の保護者が見学に訪れ、岡山県の少林寺拳法指導者が視察に来ていた。前回の授業では、笠岡市長と教育長が視察し、その模様は市長のツイッターにアップされた。

(3) ICT機器による演武撮影

記者が体育館に入ると、忙しく数十台のパソコン型タブレット端末を準備する女性が目に入った。最終回となるこの日には、演武発表会に代わって、タブレット端末を使って演武を撮影するという。生徒が演武動画をサーバー上に保存し、後日教師がそれを視聴して評価する。女性はICT機器サポートのために笠岡市教育委員会から派遣されている井谷美穂氏であ

った。授業では、生徒たちがタブレットを使用して模範演武の動画を視聴したり、自分たちの演武を撮影する。すでに前回の授業で、生徒は演武を撮影している。「生徒たちはうまく撮影をしています。保存方法を教えると、うまくやってくれました。今時の子どもはデジタルに慣れていますね」と井谷氏は話す。

タブレット端末は、笠岡市が2019年9月に市内の中学校に配置したもので、金浦中学校には40台が導入された。支援員の役割の一つは、ICT機器を授業に効果的に活用できるように教員をサポートすること。一昨年から金浦中学校に派遣されている井谷氏が積極的に教員と連携を図ってくれるお陰で、生徒がタブレット端末に興味を示し、数学、理科、社会、英語をはじめ、多くの教員がそれぞれの教科で授業にICT機器を取り入れているという。

少林寺拳法の授業でも演武を撮影し、それをグループ単位で視聴し話し合うことで、より完成度の高い演武に仕上げられることなど

から、導入を決定した。

少林寺拳法の授業では、グループが教育機関向けに提供しているクラス管理システム、classroomを使用している(具体的な内容は後述)。

(4) 指導体制

2年生の授業は、底冷えする体育館で、素足の男女生徒77名が短パン、体育着姿で元気に授業を受けていた。

授業者は小井教頭が行い、保健体育科の藤井教諭、谷川さつき教諭、外部指導者の馬場氏が補佐にまわっていた。小井教頭と馬場氏とは10年来、ともに授業をしてきた。「前回もビデオ撮影を行いました。その動画を見ながら生徒たちは自主的に改善を加えていきました。授業では、安全を心がけて、礼、作法を大切にしています」。馬場氏は笑顔でそう語った。

この日は小井教頭が中心となり授業を展開したが、カリキュラムの前半では谷川教諭が授業を受け持った。評価は、少林寺拳法を専門としない藤井教諭、谷川教諭が行うとのことだ。



演武を撮影し、主体的な学びに繋げる



緊張感漂う座禅



「パブリカ」に合わせて楽しみながら行う動作の練習



「九九」を言いながら上段突きを行う
(デュアルタスクによる基本練習)

一つのグループは、演武者3名と撮影者1名の計4名の生徒で構成。グループごとに演武を撮影する。撮影担当の生徒が録画を開始すると、生徒は真剣な表情で演武を行う。生徒たちはその動画を視

(9) 演武撮影

「君は生きのびることか」と題した講話へと移った。小井教頭は講話で、「人は一人では生きていけず、みんなと繋がっていないといけない。それには挨拶や礼などが必要である」と語りかけた。さらに、「力愛不二」と和されるものとする「力愛不二」や、互いを尊重する大切さを説いた「組手主体」など、少林寺拳法の教えを身近な話題に関連づけて説明した。「是非、少林寺拳法で学んだことを実生活で生かしてほしい」と最後に結んだ。講話は、4回の授業で、必ず一つは入れているそうだ。

「少少林寺拳法が専門でない保健体育科の教員が、動きが速い演武を生で見ると評価するのは大変難しい。動画なら何回でも見直すことができる。スロー再生も可能なので、評価方法としても優れている。生徒は動画を視聴しながら課題を見つけたら納得できるまでやり直せるといふ条件が必要だと考えます」と語った。限られた時間内で少林寺拳法の何を伝えて、生徒たちに何を感じてもらいたいか、小井教頭が模索しながらたどり着いた授業スタイルであることがうかがえた。最終的には主体的な学びなのである。

ここで「さあ、『九九』を言いながらやりましょう」と小井教頭。生徒は声をそろえて「1×1」「1×2」「2×2」…と、かけ算を言いながらテンポよく「上段突き」を始めた。これは、二つの課題を同時に課す「デュアルタスク」。少林寺拳法の動作を行いながら計算を行うことで、脳内を活性化させる。「突きのタイミングで答えを発することで、脳を活性化させ脳機能を高めることに繋がります」。体育と関係ないように見えるが、「体育は運動能力の向上を図るだけでなく、知力や精神力などの人間力向上にも繋がる」と小井教頭は考える。

「少少林寺拳法が専門でない保健体育科の教員が、動きが速い演武を生で見ると評価するのは大変難しい。動画なら何回でも見直すことができる。スロー再生も可能なので、評価方法としても優れている。生徒は動画を視聴しながら課題を見つけたら納得できるまでやり直せるといふ条件が必要だと考えます」と語った。限られた時間内で少林寺拳法の何を伝えて、生徒たちに何を感じてもらいたいか、小井教頭が模索しながらたどり着いた授業スタイルであることがうかがえた。最終的には主体的な学びなのである。

「少少林寺拳法が専門でない保健体育科の教員が、動きが速い演武を生で見ると評価するのは大変難しい。動画なら何回でも見直すことができる。スロー再生も可能なので、評価方法としても優れている。生徒は動画を視聴しながら課題を見つけたら納得できるまでやり直せるといふ条件が必要だと考えます」と語った。限られた時間内で少林寺拳法の何を伝えて、生徒たちに何を感じてもらいたいか、小井教頭が模索しながらたどり着いた授業スタイルであることがうかがえた。最終的には主体的な学びなのである。

「パブリカ」に合わせて楽しみながら行う動作の練習

「九九」を言いながら上段突きを行う (デュアルタスクによる基本練習)



動画を視聴しながら話し合いを行う



演武撮影はグループごとに実施

なつて進められている。このため、小井教頭の転勤によって少林寺拳法経験者が学校にいないくなつたり、また、現在の保健体育の教員が変わつたりすると、少林寺拳法の授業実施が難しくなることなどが課題として挙げられる。

動画の保存では、使い方の説明に時間を有することや、WEI:エリアが体育館の隅と限られているため、生徒が保存に手間取つたりするなど、体育以外の部分に時間を取られてしまう所も見受けられた。また、評価を動画で行うため教員には授業時間外での作業が増え負担になるのではないかと不安もある。

演武撮影のメリット、デメリットを検討しながら最適解を模索する必要性がありそうだ。

(II)生徒の感想と教員の所感。継続実施の可能性

生徒からは、「演武はしっかり行えました。周囲でケンカがあつても、少林寺拳法で止めることが出来ると思います」(女子)、「少林寺拳法の授業は1年ぶりだったので忘れていた部分があつたが、

去年よりは上手く出来たと思う。裸足で気合も入つた。武道の考え方を日常で生かそうと思う」(男子)との感想が寄せられた。

保健体育科教師の藤井教諭と谷川教諭はそれぞれに少林寺拳法授業の所感を述べてくれた。

(藤井教諭)「人を傷つけないという教えがいい。相手を尊重することは武道共通のことですが、少林寺拳法はその教えに高い道徳的価値があると思います」

(谷川教諭)「少林寺拳法は道具を使わないので時間短縮に繋がっている。そのため講話の時間も取れます」

来年度の金浦中学校の少林寺拳法授業についてうかがつたが、人事異動などの可能性もあるため、どうなるかは分からないとのことだ。しかし、本年度についても谷川教諭がある程度授業を行つているので、小井教頭が転勤となつた場合でも、馬場氏のサポートのもとと谷川教諭が実施する可能性があるという。

金浦中学校では、生徒の自己評

価を踏まえて、来年度以降も是非少林寺拳法を継続したいと考えている。

◇ 2年生の授業の取材後に、1年生の授業を見学したが、2年生と全く同じ内容であつた。その理由について小井教頭は「生徒たちは1年経つと少林寺拳法の技の動作を完全には覚えていない。2年目に発展した内容を指導するのは難しい」と説明した。年ごとに内容を変えするため、基本動作以外は生徒に重複した内容を指導することはないが、忘れることを考慮して、1年後に発展的な内容は一切持ち込まない。理想を追い求めずに、生徒主体の現実的な授業を貫いている。

取材の最後、小井教頭は「少林寺拳法を中学校の授業で行うことは、人間としての生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、生徒の道徳的な判断力と心情、実践意欲と態度を養うことに繋がります。これからも、生徒の深い学びを行っていきたいです」と語つた。

(文||長澤克成、写真||石井政利)

資料2 自己評価シート

金浦中学校 R1 保健体育 少林寺拳法
自己評価シート 2日目 (3・4時間目)

年 組 番 氏名

A・・・よくできた B・・・できた C・・・もう少し

1 自分や仲間の安全に注意して練習することができたか。	A B C
2 心をこめて合掌礼ができたか。	A B C
3 礼儀正しく話を聞いたり練習をしたりすることができたか。	A B C
4 「大切なものを守るために」を理解できたか。	A B C
5 結手立、合掌礼、座り方(着座、安座)、立ち方ができたか。	A B C
6 外受敵のポイントのとおり動くことができたか。	A B C
7 輪技のポイントのとおり動くことができたか。	A B C

自分でやろう！授業のまとめ！

・今日の授業で学習した講話「大切なものを守るために」の内容をまとめて書く。

・技のポイントを書く。

外受敵のポイント 4つ

- 1
- 2
- 3
- 4

輪技のポイント 4つ

- 1
- 2
- 3
- 4

・がんばったこと、感想などを書く。